

作業療法基礎評価学演習

《担当者名》○桜庭聡 s-saku@hoku-iryo-u.ac.jp 坂上哲可 齋藤隆司

【概要】

本実習では、作業療法臨床において人体を理解する基礎となる評価方法の実技を具体的に実施することで、知識と技術を連動させていくことを目的とする。ディプロマ・ポリシーに掲げられている「DP2. 作業療法に必要な基礎的専門知識と技術を修得し、科学的思考のもと実践する能力を身につけている。」の要件に該当する。さらに、今後実施される臨床実習を想定し、評価技術(観察・面接・検査測定など)のみならず、対象者への配慮、学生としての基本的態度を学ぶ。

【学修目標】

本実習の目的は、リハビリテーションを実施していく上で必要な検査・測定を実施し、対象者への理解を深める技術を獲得することである。

一般目標

1. 解剖学や生理学などを含め、知識として学んだ検査・測定項目を演習を実施・体験する。
2. 検査・測定各項目の結果の判定および解釈の過程を学ぶ。
3. 作業療法士に必要な評価技術を獲得する。

行動目標

1. 各検査・測定項目の手技の理解と説明ができる。
2. 対象者に各検査・測定項目の説明が適切にできる。
3. 各検査・測定項目を正確かつ円滑に実施できる。
4. 各検査・測定項目の結果の解釈ができる。
5. 対象者の安全を考慮した行動で臨むことができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 2	体表解剖(骨)	ヒトの体表から触診にて触れられるランドマークを理解し、解剖学で得られた知識と統合させて説明することができる。	坂上哲可 齋藤隆司
3) 4	体表解剖(筋)	ヒトの体表から触診にて触れられる主要な筋の走行やその働きを理解し、解剖学で得られた知識と統合させて説明することができる。	坂上哲可 齋藤隆司
5	形態計測 感覚検査	体表解剖で学習した内容を基に、ヒトの四肢等に対して長さ等を計測することができる。 表在覚及び深部覚検査を中心とした感覚検査を、再現性を持って実施することができる。	齋藤隆司
6	深部腱反射(DTR) 病的反射 バランス検査	腱反射の実習を通して、筋の生理的作用とその働きについて説明することができる。 腱反射や病的反射の実習から、その意義を説明することができる。 バランス検査を通して、ヒトに備わっている転倒・転落等から身を守る機能について理解し、適切に検査を実施することができる。	桜庭聡
7) 10	関節可動域測定(ROM-t)	ヒトの主要な関節の可動域を、再現性を持って計測することができる。 得られた結果の意義、解釈について説明することができる。	桜庭聡 齋藤隆司
11) 14	徒手筋力検査法(MMT)	ヒトの主要な筋の筋力を、再現性を持って計測することができる。 得られた結果の意義、解釈について説明することができる。	桜庭聡 齋藤隆司
15	まとめ	本科目でこれまで学んだ基礎的な評価の手技・知識を統合し、臨床実習に向けて統合的な演習を行う。	桜庭聡 齋藤隆司

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験100%（ペーパーテスト）で評価を行う。

【教科書】

Helen J 他 著 「新・徒手筋力検査法 第10版」 協同医書出版 2022年
矢谷 令子 他 編 「作業療法評価学（第3版）」 医学書院 2017年
伊藤俊一 他 編 「PT・OTのための測定評価1 ROM測定 第3版」 三輪書店 2023年
田崎義昭 他 著 「ベッドサイドの神経の診かた（改訂18版）」 南山堂 2016年

【参考書】

佐竹勝 編 「作業療法学ゴールドマスターテキスト 作業療法評価学」 メジカルビュー社 2022年
Joseph E.Muscolino 著 / 日高正巳 監訳 Dr.マスコリーノ 「Know the Body 筋・骨格の理解と触診のすべて」 医歯薬出版 2014年
Thomas Platz 他 著 藤原俊之 監訳 「上肢リハビリテーション評価マニュアル」 医歯薬出版 2013年
潮美泰蔵 他 編 「PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学」 羊土社 2019年
林 典雄 著 「運動療法のための 機能解剖学的触診技術 上肢 改訂第2版」 メジカルビュー社 2011年
Karen Schultz 著 中田眞由美 訳 「シュルツ・上肢の痛みの評価法」 協同医書出版 2003年
日本作業療法士協会 監修 「作業療法学全書3 作業療法評価学」 協同医書出版 2020年
鎌倉矩子 他 著 「手を診る力をきたえる」 三輪書店 2013年

【学修の準備】

解剖学や生理学、運動学など既習のリハビリテーション基盤科目とのつながりも強い科目であることを念頭に置くこと。
実技に関してはこの時間内で習得できないことも多いため、適宜教員に相談しながら実技練習等を行うことを推奨する。
予習は次回の内容をシラバスで確認した上、授業範囲の教科書を読んで理解しておくこと（80分）。
復習は教科書、配布資料などを活用し、学修を深めること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

DP2. 作業療法に必要な基礎的専門知識と技術を修得し、科学的思考のもと実践する能力を身につけている。

【実務経験】

桜庭聡（作業療法士）、坂上哲可（作業療法士）、齋藤隆司（作業療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

病院等臨床施設での多くの疾患の治療経験をもとに、知識のみならず技術的指導も時間をかけて丁寧に指導する。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している